

ハダニ類

ナミハダニ two-spotted spider mite(*Tetranychus urticae*)

カンザワハダニ Kanzawa spider mite(*Tetranychus kanzawai*)



葉裏がカスリ状の小斑点で白くなる



ほ場周辺に残さを放置すると発生源になる

【見分け方（被害と診断）】

主にナミハダニとカンザワハダニの2種が寄生する。

両種とも寄主範囲が広く、増殖率も高いので薬剤抵抗性をもった系統が発生しやすい。

初発時は葉表にカスリ状の小斑点が部分的にみられるが、多発すると葉表全体に広がりザラザラしたサメ肌状となる。さらに、株の上位に集中し、クモの巣状の糸を張ったときは防除が困難になる。葉がカスリ状の小斑点により葉色に異常が認められた場合は、直ちにルーペを使って葉裏を観察するとハダニの成虫や幼虫、卵が確認できる。

【発生生態】

生活サイクルは卵 幼虫 第1若虫 第2若虫 成虫となる。卵から成虫になるまでの期間は25℃で約9日で、1雌が約100~200産卵し、増殖率は極めて高い。高温、乾燥条件で発生しやすく、ほ場周辺の雑草や出荷後の株の残さが発生源になる。